

(様式)

# 令和5年度 学校評価 学校関係者評価書

学校園名	三木市立自由が丘幼稚園
------	-------------

## 1 学校教育目標

遊びながら学び育ち合う子ども達の育成 (1)明るい子 (2)やさしく心豊かな子 (3)気づき、考える子 (4)根気強い子
-----------------------------------------------------------------

## 2 本年度の重点目標

「心豊かで思い合える子どもの育成」	(1) 心身の調和のとれた発達を促す多様な実体験が得られるように工夫し、感じる心を育てる。 (2) 地域、小学校などとのつながりを深めながら、連続した育ちが保障されるように努める。 (3) 積極的な情報の発信を行い、保護者や地域の方の理解を得ながらより教育力を高めていく。
-------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 3 自己評価結果(達成状況) 【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
教育課程・指導	○一人一人の内面を読み取り、支援の方向性を探る。(研修会、職員会での日々の話し合いや個人支援案の作成など) ○子どもたちが主体的に活動するための教育内容について探る。 ○基本的な生活習慣の育成を図る。 ○給食や栽培活動を通じた食育の推進を図る。	○個人支援案を作成し、職員間でカンファレンスを行い、個々への支援を共通理解していった。 ○新任研修を含めた園内研修会(講師を招聘)を定期的に行い主体的な子どもを育てるための保育の内容・支援についての研修を重ねた。 ○基本的な生活習慣については個々の発達に応じ、家庭との連携を密にしながら行っていった。 ○食育の推進については畑の栽培計画を子どもたちとすすめたり収穫した野菜をどのようにクッキングするか相談したりしながら保育を進めることで食への関心が高まった。	B	○少人数がゆえ一人一人の個性の固定化や遊びの限定化が見られるので様々な交流を通して見方やかかわり方が広がるよう保育を工夫する。 ○挨拶などの基本的な生活習慣は職員自身が積極的に行うことで心地よさを感じ取れるようにしていく。 ○食育については個々の発達段階や状況に応じて大きく左右されるのでスモールステップで達成感を味わえるよう支援していく。
道徳・人権教育	○身近な自然や小虫、動植物にふれながら、心を動かし、命を大切にすることの育成を図る。 ○様々な体験活動や人とのかかわりを通し、他者の存在や思いに気づきながら、人とかかわる力や規範意識の芽生えを培う。	○うさぎの世話を年長から年少へ引き継ぎながら子どもたちが毎日世話をすることで思いやりの気持ちが育った。 ○自分たちが捕まえたカエルやザリガニ、虫などの世話をしながら命の大切さにふれることが出来た。 ○未就園児の会や年長と年少との交流を意図的に計画することでどのようにかかわっていくべきか考え行動できるようになってきた。	A	○地域の方とのかかわりを広げ、地域の中で大切にされていることを実感し自己肯定感を高めていく。 ○自然を介した実体験を保育の中に取り入れ、職員も様々な生き物の命にふれながら子どもたちと感じ取った気持ちを共有していく。 ○子どもの人権感覚を育てるためにも研修を通して職員の人権感覚を磨いていく。
特別支援教育	○一人一人の個性を子ども同士が認め合い、育ち合える仲間関係の育成を図る。 ○専門機関と繋がり多面的に子どもをとらえることで、発達段階を踏まえた的確な支援の方向性を見極める。	○子ども同士のかかわり方や人間関係の構築につながる手だてについて、日々教師間でカンファレンスを行い共通理解した。 ○月一回講師を招聘して園内研修会を行い、保育の中での具体的な支援の在り方について方向性を定めた。 ○各進学先の小学校との連絡・連携を密にし、子どもたちの引継ぎや指導の在り方について共有を行った。	B	○個人支援案や個別の支援計画・指導計画を作成し、個々の特性や個性を踏まえながら継続した支援につなげていく。 ○小学校との引継ぎに際しては年度末以外にも日常的な交流・連携を大切に伝えていくよう工夫していく。
家庭・地域 小学校との連携	○園生活の中で園が大切にしていることや子どもの育ちなどを、日々発信し、家庭との連携を密にしながら、共に子どもを育てていく。 ○広野幼稚園と定期的と一緒に過ごす日を設け、集団生活の中で互いの気持ちの交流を深めていく。 ○地域との身近な繋がりを広げ、地域で安心して育っていけるような心の素地をつくる。 ○近隣の1年生との連携を深めることができるように、交流の在り方について工夫する。	○日々の保育で見られた育ちを掲示板でのドキュメンテーションやお迎えでのスピーチ・クラスだより・ホームページなどを通してタイムリーに知らせていった。 ○広野幼稚園との定期的な交流を進めるにあたり、合同での職員会議を重ね、子ども同士の交流を深めるための保育計画を行った。 ○さつき会の役員さんを中心に様々な活動を実施し、子どもたちの育ちにつながった。(夏祭り・クリスマス会・読み聞かせ・集団降園など) ○わくわくステーションのお祭りや公民館活動への参加、小学校や近隣園との定期的な交流、地域との交流やボランティアの招聘など保育内容とリンクさせながら交流を深めることが出来た。	A	○ドキュメンテーション等を通して今後も子どもたちの活動がどんな育ちに繋がるか具体的に啓発していく。 ○保護者の協力の下、様々な活動を通して交流を深めることが出来た。今後も少人数の良さを生かしつつ他園との交流を長期的に計画し、かかわる力の育成につなげていく。 ○地域とのつながりが以前の姿に戻りつつある。今後も引き続き地域の中で育っていけるよう連携を図っていく。
健康・安全教育 防災教育	○適度な距離感を保ちながら手洗いやうがいや心を心がけ健康に過ごせるようにする。 ○避難訓練を定期的実施し、まず職員間の意識を高め、命を大切にすることについて子どもや保護者と共有する。 ○市教委と連携した危険箇所等の施設管理体制の充実を図る。	○日常生活の中で健康に過ごすための手洗いやうがいなど、子どもたちが意識して行えるよう伝えていった。 ○避難訓練を行う中で気づいた事を職員間で伝え合い、鍵の取り付け等、保育室の見直しを行った。 ○遊びの中で起こりうる事故について「ヒヤリハット」を作成し、大きな事故が起こらないよう全職員で共通理解した。	B	○能登での大きな地震を受け、防災に関する意識をより高められるよう様々な状況を設定しての訓練を行えるようにしていく。 ○長期間避難することも想定し、簡易トイレや避難場所の確保などの環境を整えておく。 ○日常の中で起こりそうな事故を回避できるよう保育室の点検を行う。

## 4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

○自己評価方法は適切である。 ○アンケート結果を数値化し昨年度から分析、次年度の方向性を示すなど公正に評価している。 ○アンケート結果からの評価だけでなく自分たちの取り組みと照らし合わせ総合的に判断するとお良い。
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価 評価Bより評価Aの方が適切ではないかと思う。 ○遊びの中で様々な経験が子どもたちの力となっている。見守りながらも自分たちで折り合いをつける経験を幼稚園で大切にしたい。 ○基本的な生活習慣は園と家庭が連携して行うことが必然と考える。 ○食育では園の環境の良さを生かした保育を今後も続けていく。
評価Aは、適切である。 ○保護者アンケートでも高い評価を得られている。様々な自然や生き物とのかかわりを通して命について学びを深め思いやりの気持ちが育っている。 ○様々な人とのふれあいを通してかかわる力や社会性が芽生えているのが分かった。
評価Bは適切である。 ○日々の保育に向けての指導案や支援案を作成しておりきめ細やかな支援が出来ている。 ○アンケートでの評価項目が少ないため、日々の取り組みも評価の一つとして取り上げていく。
評価Aは、適切である。 ○日々のホームページの更新や写真によるドキュメンテーションで情報発信され園の様子がよく分かるよう取り組まれている。 ○保育の中で今年は今年のカラーが出て子どもたちの楽しさや成長を見ることが出来た。また地域の中でもその姿を伝えることが出来ていた。 ○幼稚園での成長を伝えながら次の小学校へとバトンをつなげていくよう引継ぎを大切にしている。
評価Bは適切である。 ○コロナ禍の影響で経験が乏しい子どもたちの為に様々な動きのある遊びを通して瞬発力や洞察力を高め、怪我の防止に繋げていく。 ○不審者対応については環境整備の観点から今後も教育委員会に整備を依頼し万全の措置を取っていただきたい。

